

いなからプロジェクト

～生きがい、多様な参加ができる地域を ともにつくる取組～

コンセプト

地域がつながり、いきいき誰もが活躍できる機会、共に暮らすまちづくりの実現のため、イーナちゃんグッズ製作をとおして、それぞれができることを考え、意識の醸成を図る。

地域共生社会

共 創



イーナちゃん



参 加

プロジェクト名



いなからプロジェクトは、3つの意味を含んでいる。

- ・伊那から…「地域共生」の取り組みを“伊那から”発信していく。
- ・なから …方言の「なから」はだいたい、おおよその意味。
地域共生プロジェクトが考えた伊那市の目指す姿が「なから伊那暮らし」。
いい塩梅やいい距離感＝「なから感」が大切
- ・カラフル…ひとり一人が様々な色を持つ存在であり、
それがグラデーションとなりかたち作っている。

ゴール

- 自分が暮らす地域に関心が向き、市民が魅力を再発見。
- 多様な主体の参画による地域共生社会。
- 地域の魅力として洗練し、発信することで、関係人口の創出につなげていく。



第1弾：
障害のある人が描くアートによる
グッズ製作
(障害がある人が描いた絵を紙製の
クリアファイルに印刷。)

第2弾：
伊那弥生が丘高校生とつくる
グッズ製作
～高校生の視点でまちを再発見～
(イーナちゃんをおにぎりモチーフに
し、トートバック製作)



第3弾：地域企業等とつくるグッズ製作
多様性×混ざり合い＝唯一の魅力

■趣 旨

多様な方々と協働し、アップサイクルのバックを製作し、グッズとして販売。
現在、販売用のグッズはクリアファイルのみ。グッズは、庁内からの要望が多く、また販売品としてトートバックは人気があった。
今回、実用性、耐久性が高い、トートバックを商品化し、刷新を図る。

■内 容

タカノ（株）エクステリア部門と協働し、オリジナルのトートバック製作、缶バッジをセット販売する。
タカノ（株）は、オーニング、パラソルの製造過程で出る端切れでバックを製作し、「ルビーバック」と名付け、ブランド化し販売することで、話題となっている。
第3弾では、端切れの組み合わせ、持ち手はこれまで廃棄されていたビニール素材の端切れを使用し、オリジナルの製品を考案。
端切れのため、色とりどりの生地を使用することで、同じものではなく、いなからのコンセプトである多様性、カラフルとマッチするグッズを製作。
バックには、様々な方たちと缶バッジのデザイン考案をし製作、セット販売する。

